＜常任理事により平成28年度環境調査報告に取り組んだ感想＞（12月20日～21日）

群馬県立利根実業高等学校　高山　伸哉

今回、日連のＦＦＪ環境調査に参加させていただき、日本に存在するタンポポの種類や数を知ることができました。また、様々なタンポポの生態や歴史についても知ることができました。

日本には、主に在来種のカントウタンポポ、シロバナタンポポ、外来種のセイヨウタンポポ、アカミタンポポが存在していることが分かりました。その中で外来種のセイヨウタンポポがダントツに多く、在来種のカントウタンポポ、シロバナタンポポは極めて少ないことが分かりました。理由として、有性生殖のカントウタンポポ、シロバナタンポポと比較しセイヨウタンポポは、有性生殖でもあり単為生殖をすることができ、一株だけで子孫を残すことができます。さらに、圧倒的にセイヨウタンポポのほうが繁殖力が強いことが分かりました。

セイヨウタンポポは明治時期に北海道に入ってきたらしく、当時北海道で教師をしていたアメリカ人が野菜として導入したという説があります。また、タンポポは古くからヨーロッパや中東では、多少苦味はありますが、サラダなどにする食用の文化があります。そして、遺伝の法則の発見で有名なメンデルはエンドウ豆を材料に遺伝の法則を発見しましたが、その後に選んだのはセイヨウタンポポであると言われています。

それらのことから、タンポポは古くから人とのかかわり深い植物だといえます。

この、タンポポ調査の集計をしているさいに、たくさんのデータが提出されてる県連盟と全く提出されてない県連盟のさが激しかったと思います。また、たくさん提出されていても三次メッシュコードが適当であったり、明らかに株数がおかしいデータなどがありました。この調査はけして、とりあえず提出すれば良いデータではありません。一人一人がしっかりと高い意識を持ち調査に取り組むことが大事だと思いました。

今回の環境調査にご協力してくださった先生方、そして生物多様性センターの椎葉様、ご助言ありがとうございました。この、環境調査で分かったことを今後の環境に対しての材料にしたいと思います。年末の忙しい中、二日間お疲れさまでした。来年度の環境調査頑張ってください。

茨城県立鉾田農業高等学校　廣山　瑞季

今回、２０、２１日の２日間にわたり行われた環境調査研修会では、全国から集められたデータをブロックごとに考察を行い、その後全国の集計結果をもとに考察を出しあいました。

各ブロックの考察を行う際には、自分の考える内容が他の人に伝わりやすいように、また、間違った表現をしないように気を付け分からないところなどは聞きながら進めていきました。私は、北信越ブロックを担当しましたが４県のデータをまとめ自分なりの考察を行いました。パソコンを２人で使い時間など大変なこともありましたが他のブロックの調査結果も見ることができ、比べることができたのでそこの部分はよかったです。

全国から集められたたくさんのデータをもとに考察をまとめるのは思っていたより大変な作業でした。平成２６年、２７年のデータやインターネットを見ながら考察を出しあうと様々な意見があり自分の気が付かなかったところを知ることができました。それによって課題もたくさん見つけることができ、改めて意見を出し合うことの大切さを実感することができました。また、提出していない県連盟が多かったことについて、もっとたくさんのクラブ員のみなさんに行ってほしいなと思いました。

　この２日間で環境調査を行っていく中で、今まで自分の知らなかったタンポポの生息しやすい環境やどこに多く見られるのかなどを知ることができました。また、去年と同じところ、少し変わっているとこも知ることができたのでよかったです。

　最後に、パソコンが得意ではない私でしたが、常任理事のみなさんの助けを得ながら進めていき終えることができました。２日間という短い時間での作業は大変でしたが、充実した時間になったと思います。

ありがとうございました。

栃木県立小山北桜高等学校　𠮷澤　建太

まず始めに皆さんお疲れ様でした。この二日間は学ぶことも多く貴重な体験になりました。

この二日間はパソコンを使っての作業がメインでした。私はいつもパソコンを使っていないので苦手な作業でしたが常任理事としっかり協力し合い、無事活動を終えることができました。

今回の環境調査は、全国から集めたタンポポの集計結果をもとに、自分たちなりの考察を考えました。今年は、いきものログに変更点があり、少し難しい作業になりましたが無事完了することができよかったと思います。

一日目は、各担当のブロックごとに分かれ、集計結果をまとめる作業とそれについての考察、あと全国の集計結果をもとに考察を考えました

私は関東ブロックを担当させていただきました。昨年は全国で統一していたデータしかなったので、一昨年と比べて見ると環境調査にご協力してくださっている方が増えました。農業クラブの活動に参加してくださる方が増えてきているのは去年の常任理事の方々が頑張ってくれたおかげだと思いました。なので、私も次の環境調査が良くなるように、考えて活動できました。活動していく中で、一つのデータだけ見るのではなく色々な情報を比べることによって新しいことに気付くことが、できることを知りました。

二日目は、全国のまとめと環境調査のパワーポイントの作成を行いました。

全国のまとめでは、みんなの考察を聞き、自分と似た考察があれば、違う考察もあり、とても参考になりました。午後には環境省生物多様センターの椎葉様に来ていただきました。

良い報告書を作ることができて良かったです。この調査で外来種が増えてきてることが分かり、在来種を大切にしなければいけないと思いました。

今回の環境調査は超結果提出していただいてない都道府県もあるので、まだまだこの調査は未完成なので今後も続いていく調査になると思います。来年度はもっと良い結果が出るように協力して行って欲しいと思います。

そして、手伝ってくださった菊池先生、池田先生、椎葉様ありがとうございました。

埼玉県立いずみ高等学校　内田　恵

　環境調査にご協力いただいた全国の農業クラブ員の皆さん、ご協力ありがとうございました。全国から集まったデータの集計は大変でしたが、その分環境調査やタンポポへの関心が高まりました。

　私は、高校生活の三年間を通して、日ごろの授業や課外活動、ボランティア活動などで自然環境に関する学習をしてきました。環境調査研修会では、私の持っている知識や考えを活用したいと意気込んで参加していました。

　さて、最近では日本社会全体が環境保全活動に関心を持って取りくむようになりました。しかし、「なんとなく良いことをしている」という風潮があり、本来の目標が不透明なまま活動をしている団体が多くあるように思います。しかし、これは生態系サービスを守るという大きな目標を知ったうえでこそ意味を成すものです。

特に、これからの農業は環境保全とともに歩んでいくべきだと言われています。私は、自然環境を学んできた農業高校生の代表として、環境調査を通して農業高校生が自然環境に関心を持ってほしいと思います。

私たちや後輩たちが作る、この報告書がさらに普及し、これを基に全国のクラブ員が自然環境に関心を持つ日が来ることを願っています。

千葉県立安房拓心高等学校　吉田　有里

　今回の１泊２日の環境調査研修会は、「いきものログ」がサイバーテロにかかってしまった影響で、自分たちの考察・各担当の集計データがまとめられていないという状態で始まりました。まず、自分が担当しているデータの表からグラフを作成しましたが、先生方がおっしゃる通り今年は昨年に比べデータ数が少なかったと思います。ですが、その中でも関東ブロックは数値が多く、環境調査に対する取り組みがとても感じられました。自分のブロックをまとめてわかったことは、タンポポは外来種の分布が多数を占めており、また同じ外来種でも分布している数には大きな差があるということです。品種によって繁殖力に違いがあるなど、環境調査を行っていなければ知り得なかった情報なので、身近にある物に着目していくことで知識が身に付いていくということを学ぶことができました。

　次に全国版のデータをまとめるために、個人で考察を出し合いました。８月に行った環境調査研修会のように今回も自分とは異なる意見が多数出てきて、改めて自分の考えていることを相手に伝え、また相手の考えを聞くことが大切だということを実感致しました。最終的には、多くの考察をまとめあげ発表することができたので良かったです。来年は今年よりも各県・ブロックのデータ数が多くなるようもっと多くのクラブ員の皆さんに協力して頂きたいです。

　そして、発表に至るまでに私たちを指導してくださった菊池先生・池田先生

二日間ありがとうございました。今回の環境調査研修会で常任理事全員が協力して何かを作り上げる、発表するという作業が終わってしまうことがとても残念です。長時間パソコンに向かっての活動でしたが、私たちらしく和気藹々と行うことができたと思います。この二日間という限られた時間の中で全国のデータをまとめあげたという経験を活かし、農業クラブに対する更なる関心を高めていきたいです。二日間お疲れさまでした。

東京都立瑞穂農芸高等学校　矢澤　彩花

皆さん二日間お疲れ様でした。機械操作もできず、学校の都合で途中退出しお役に立てず申し訳ありません。内田君にはみんながまとめたデータを集計してくれたり、効率的に作業が進められるよう、作業手順を考えてくれたりと役員をまとめ助けてくれました。

遅くまでの作業でしたが、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

初めは具体的にどのように作業を進めればよいのかわからず、なかなかデータをまとめることができませんでしたが、その後は役割を決めることで作業をスムーズに行うことができました。予定では事前に各担当ブロックを集計し、二日間の間に全国としてまとめるはずでしたがかなわず、ブロックと全国二つをまとめることとなりました。Excelの操作方法を事前に学んでおけばもっと早く進められるのにと思いました。

今年の関東は過去のものと比較すると関東ブロックはとても沢山のデータが集まりましたが、セイヨウタンポポがとても多く報告されました。外来種は在来種よりも繁殖力が強いため、年々在来種の数か減少していることが読み取れ、少し寂しさも感じました。

調査の結果、住宅街や畑などの報告が多く見られました。通学途中で発見したものの報告も多くあるとは思いますが、人が多いところに生息するスズメやツバメによるものではないかとも考えられると思います。今回タンポポの繁殖状況を集計して、もともと好きなタンポポにさらに興味がわきました。本来ならばもっと多くの調査結果を得ることができるはずです。常任理事としても都連盟会長としても残りわずかですが、最後にこの役職に就いて得たものをクラブ員に伝えたいと思います。

神奈川県立吉田島総合高等学校　宗形　真実

２日間の研修会お疲れさまでした。

今年度は、あらかじめ、ブロックごとの報告書を作成しておき、全国版の報告書を作成する予定でしたが、環境省のサイバーテロの影響で、いきものログへの登録がほとんどできていなかったので、1日目はブロックの考察をするところから始まりました。

　昨年は全国のみ、一昨年はブロックのみの報告書であることに加え、調査項目が変わっているところがあり、比較して考察するのは難しかったです。エクセルの使い方も忘れている部分が多く、協力して進めていきました。グラフも用いて、わかりやすい報告書を作るように心がけました。

　２日目はブロックごとの報告書の完成、全国版の考察を話し合いました。話が盛り上がって逸れてしまうこともありましたが、いろいろな意見が出ました。

自分では考え付かないようなさまざまな視点でデータを見ることができ、有意義な時間となりました。

今年度は、これまでに比べるとデータの数が少なく、約半数の連盟からデータの提出がありませんでした。ブロックでも差があるため、正確なデータの集計ができていないのが現状です。来年度以降、より充実した調査ができるよう、環境調査への協力の呼びかけを徹底して行い、多くのクラブ員に参加してもらえるよう、後輩にも伝えていきたいです。

環境調査は、全国９万人のクラブ員が共通して取り組める活動です。これからも、目標である各都道府県の分布図の完成をめざして、活動を続けてほしいです。

いきものログを使用できなかったので、これまでとは違うまとめ方になってしまったかとは思いますが、みんなで協力して報告書を作成することができました。２日間、ありがとうございました。

山梨県立北杜高等学校　中島　奈津

１２月２０日、２１日の２日間で環境調査研究会が行われました。私は東北ブロックを担当し、日本全国のタンポポの生息状況を全員で話し合いました。ブロックごとに内容をまとめたところ、いろいろな考察がでました。どのように調査をすれば来年度以降よりよいデータが集められるのかなど、活発な話し合いができたと思います。９人での話し合いは全員がしっかりと参加し、意見をたくさん出すことができました。１つ１つの内容を大切にし、そして相手にわかりやすくまとめることに気を付けました。

　タンポポ調査の集計をしていくと、提出していない県が多くあり、前年度と比べて少なく、残念に思いました。そこで‘‘データを提出していない県に来年度から参加してもらうためにはどうしたらいいのか‘‘という課題が出ました。北海道・東北ブロックは１道６県あるうちの２県しかデータがなかったため、生息地の分布図を作成した際に偏りが出てしまい、全国的に見ても今年は提出率の低さが目立ちました。関東ブロックの提出率は高くデータ数も多いため、関東ブロックのように各都道府県がしっかりと調査に取り組んでいってくれるように常任理事で声掛けをしていきたいです。

　また、タンポポの生息状況としては、外来種であるセイヨウタンポポが過半数以上を占めました。そこからセイヨウタンポポは強い生命力を持ち、カントウタンポポはセイヨウタンポポと比べて生命力が弱いことや、外来種の繁殖によって地域の生態系が破壊、受粉役を務めていた昆虫が減少し、結果的にはカントウタンポポの減少につながったと考えました。今後、地球温暖化の進行によりタンポポの生息状況が変わっていくことも考えられるため、少しでも多くの県連でデータを提出してもらい、環境の変化を見られるといいと思います。

静岡県立田方農業高等学校　福田　理恩

　12月20日・21日の二日間にわたり平成28年度FFJ環境調査の報告書を作成しました。今年度は昨年度に引き続き「タンポポ調査～在来種を探そう～」でした。夏の環境調査研修会から活動を開始し今回の冬の環境調査研修会で今年度のデータを元にブロックごとでまとめ、その後9人で全国のまとめを行いました。私は関東ブロックを担当し関東ブロックの現状や今後の課題を把握することができました。作業自体は3人で行ったため比較的、スムーズに進みました。また、私は考察を考えていく上で数値を重要視しました。調査から出た値をもとに増減や傾向など具体的な数値から結果を読み取り、その原因を考えていきました。数値から結果をだすことにより信憑性は増し、調査自体を読み解くことができると私は考えています。

今年度の関東ブロックの報告数は約4700件と数多くの報告がされ、昨年度と比較しても今年度は多く、膨大なデータを蓄積することができました。しかし一方で、課題も見えてきました。林や海岸などの観察場所に偏りがあると考えられました。林や海岸などは人の目に留まりにくい場所ではありますが、今後調査をより正確に行うには今後もデータ数を増やしていきこういった場所にも調べていくべきだと思います。